

木材加工流通施設における 課題等把握調査の結果

令和7年7月

林野庁 木材産業課 調整班

目次

1. アンケートの実施目的・手法	2
2. アンケート回答者の概要	3
3. アンケート結果概要	
① 直面している課題	4
② 人手・労力がかかっている作業	5
③ 人手不足の現状と生産量への影響	7
④ 人材確保・定着に向けた対応	8
⑤ 設備投資の予定と目的	9
⑥ リース活用の現状	10
(参考) JAS認証取得に向けた意向	11
4. まとめ	12

1. アンケートの実施目的・方法

実施目的

木材加工流通施設が現在抱えている課題を把握し、その課題を踏まえた今後の施設整備の方向性を検討するため、製材工場や集成材工場、プレカット工場等向けにアンケート調査を実施。

アンケート項目

- ① 現在、直面している経営課題について、次の中から重要度が高いものは何か。
- ② 各工場内の作業で最も人出の係る作業は何か。
- ③ 雇用人員の過不足状況はどうか。また、人手が不足している場合は、生産量に与える影響はどうか。
- ④ 人材の確保・定着のために、どのようなことを行っているか。
- ⑤ 今後5年以内の設備投資の予定はあるか、またその目的は何か。
- ⑥ 設備投資を行う際にリースは活用しているか、活用している場合は、具体的に何に活用しているのか。
- ⑦ JAS認証の取得意向はあるか、また、取得に当たっての課題は何か。

アンケート方法

実施方法：Webアンケート

(※) 各都道府県の木材加工流通施設整備担当を通じて、全国の事業者に回答を依頼

実施時期：令和7年5月9日～30日

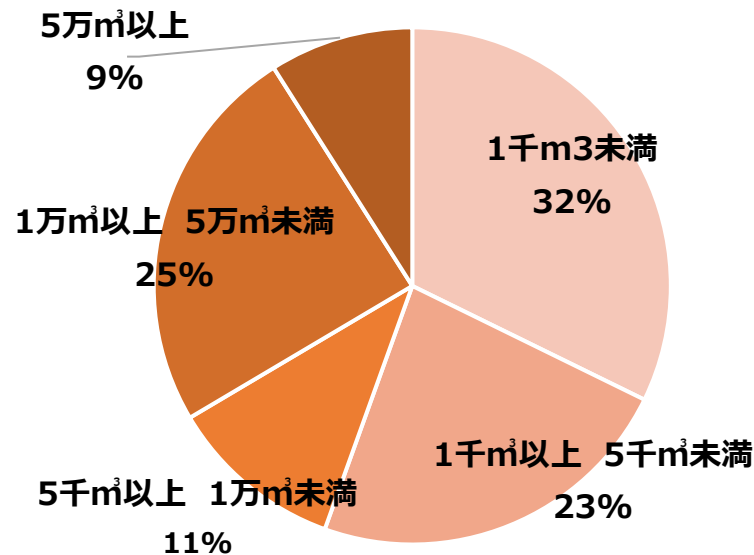
有効回答者数：574者

2. アンケート回答者の概要

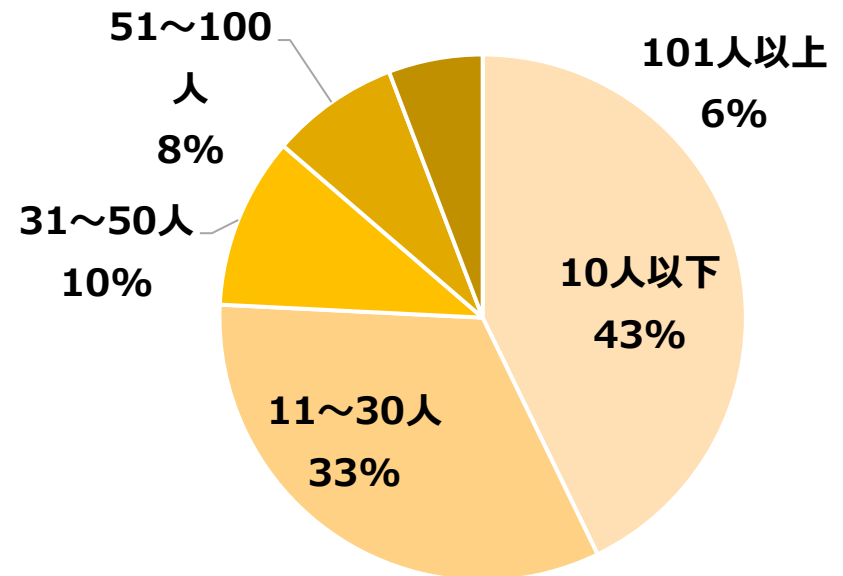
- ✓ アンケートに回答いただいた事業者のうち、原木消費量は「5千m³未満」が約半数を占め、「5万m³以上」は全体の10%となった。
- ✓ また、従業員数は「10人以下」が約4割を占め、「11～30人」が約3割、「100名以上」は約1割を占めていた。

回答者の生産規模

✓ 工場における原木消費量（換算）



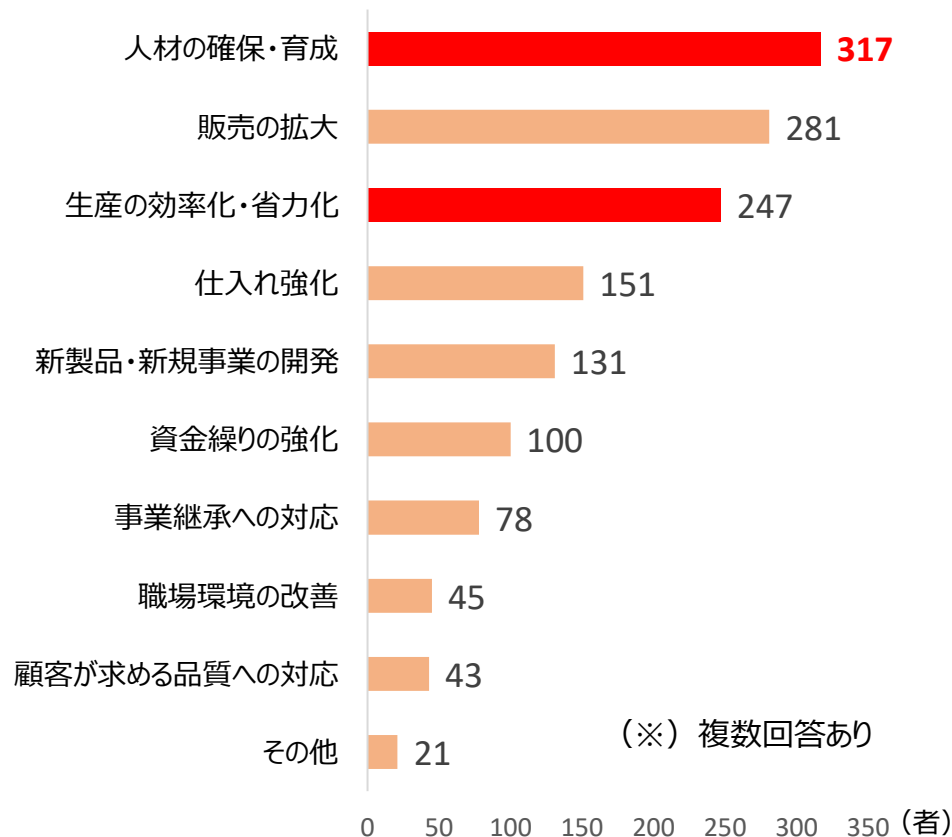
✓ 従業員数（パート等も含む）



3. アンケート結果 ①直面している課題

- ✓ 課題としては、「人材の確保・育成」を課題に上げる事業者が全体の約6割と最も多く、次いで、「販売の拡大」や「生産の効率化・省力化」を課題に上げる事業者が多くなっていた。
- ✓ 人材の不足について具体的に聞くと、「高齢化」や、「人材を確保したくともそもそも働き手が少ないこと」などが課題として挙げられていた。

直面している課題



具体的な内容

①人材の確保・育成

- ✓ 夫婦で経営しており、後継者がおらず10年後が不安。
- ✓ 従業員が高齢化しているが過疎地域の為新しい働き手がない。
- ✓ 人手不足が本当に深刻。外国人を受け入れても、仕事や日本語を覚えた頃に帰国してしまう。
- ✓ 仕事はあるが人が足りてない。

等

②生産の効率化・省力化

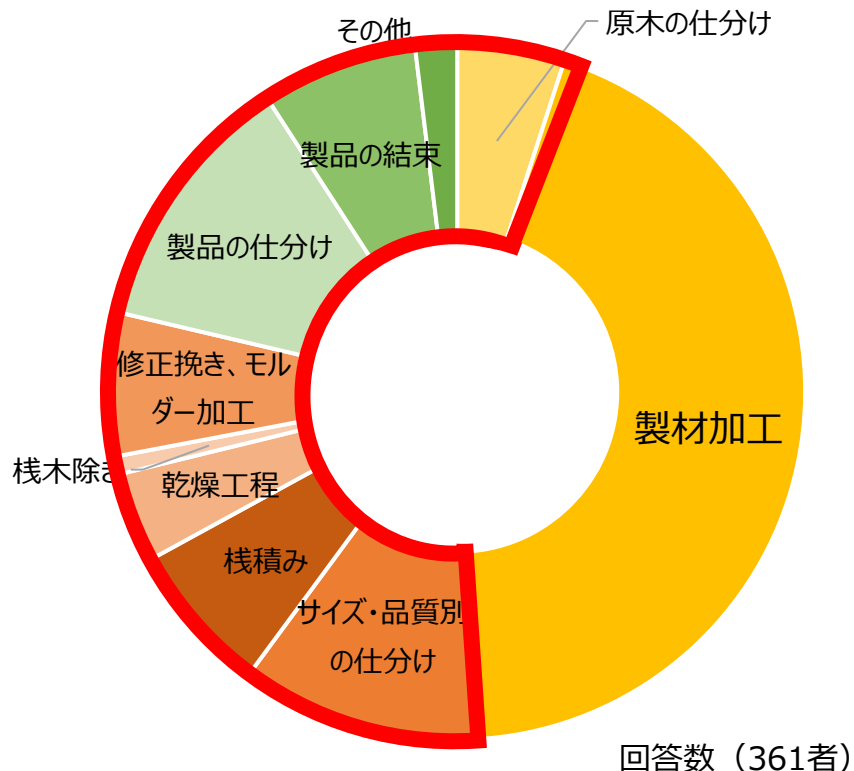
- ✓ 人件費、動力日などの高騰により収益性が悪化しているが、製造コスト増加分の価格転嫁がなされていない。
- ✓ 機械の更新が金銭面で難しい。現状の機械をそのまま入れ替えても若い世代は体力的にやめてしまう。

等

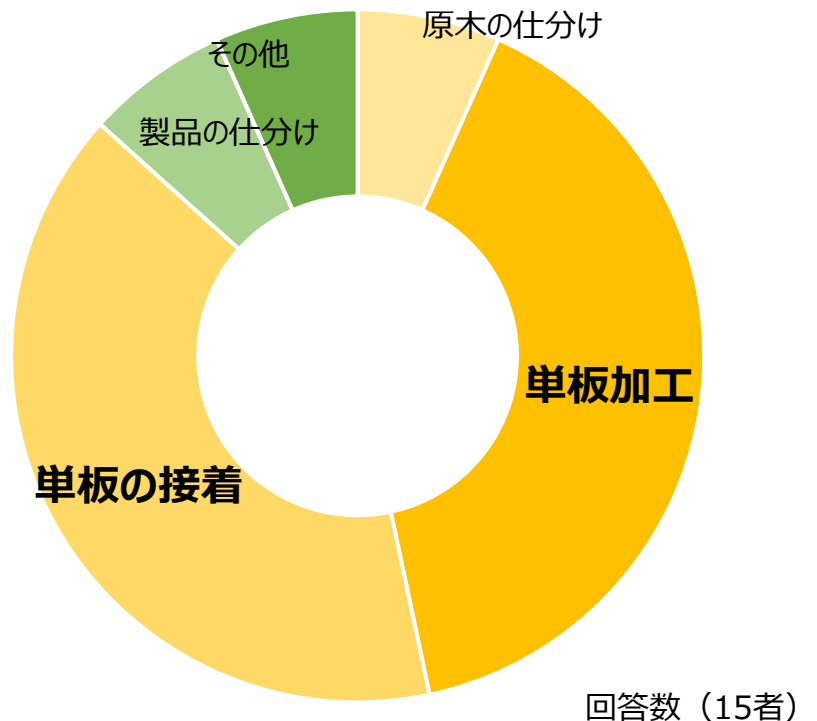
3. アンケート結果 ②人手・労力がかかっている作業

- ✓ 各工場で、最も人出や労力がかかっている作業を聞いたところ、製材工場では、約 6 割の事業者が**仕分けなどの製材加工前後の行程に人手がかかっている**と回答していた。
- ✓ 合板・単板・LVL工場では、単板への加工や、接着などに最も労力がかかっていると回答する事業者が多く、全体の 8 割を占めていた。

製材工場



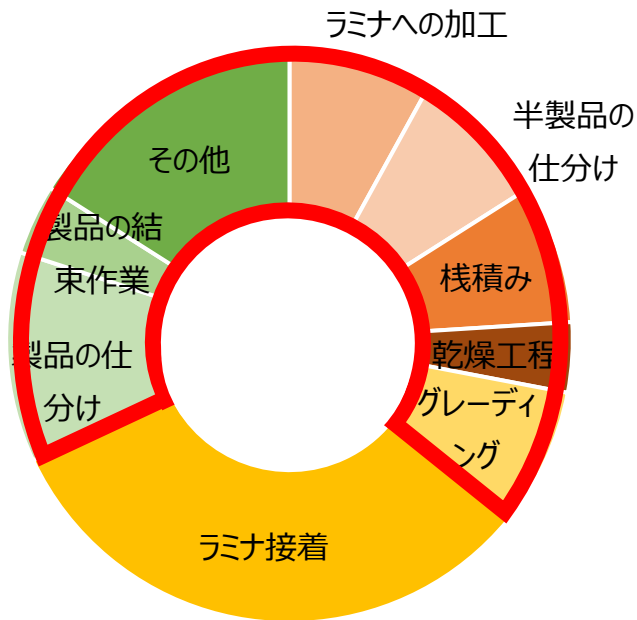
合板・単板・LVL工場



3. アンケート結果 ②人手・労力がかかっている作業

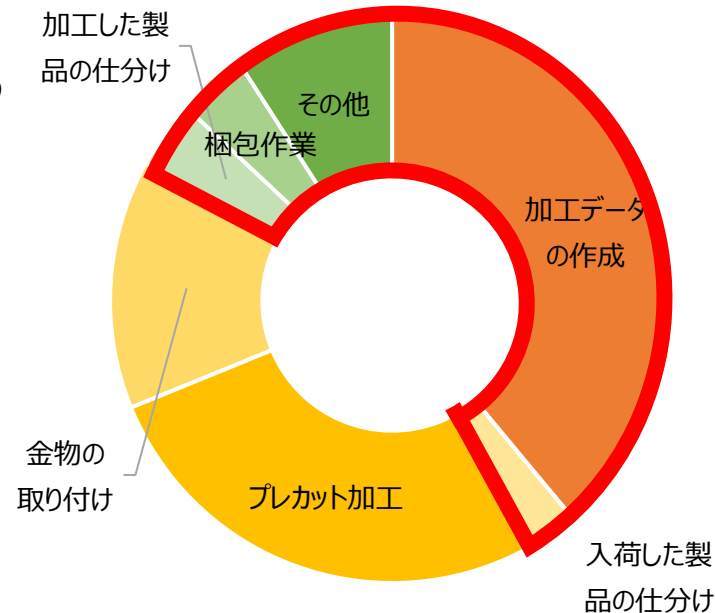
- ✓ 集成材工場では、「ラミナ接着」以外の「仕分け工程」等で人手がかかっていると回答した事業者が全体の約 7 割を占めていた。
- ✓ プレカット工場では、「プレカット加工」・「金物の取り付け」といった実際の加工工程よりも、事前の「加工データの作成」に人手・労力がかかるとの回答する事業者が多く全体の約 6 割を占めていた。
- ✓ チップ工場は、チップ加工の他、「原木の半割」に人手・労力がかかると回答する事業者が多かった。

集成材工場



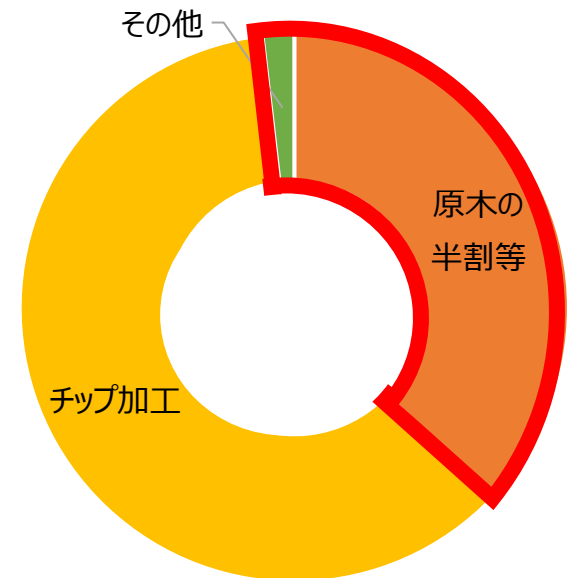
回答数 (25者)

プレカット工場



回答数 (77者)

チップ工場

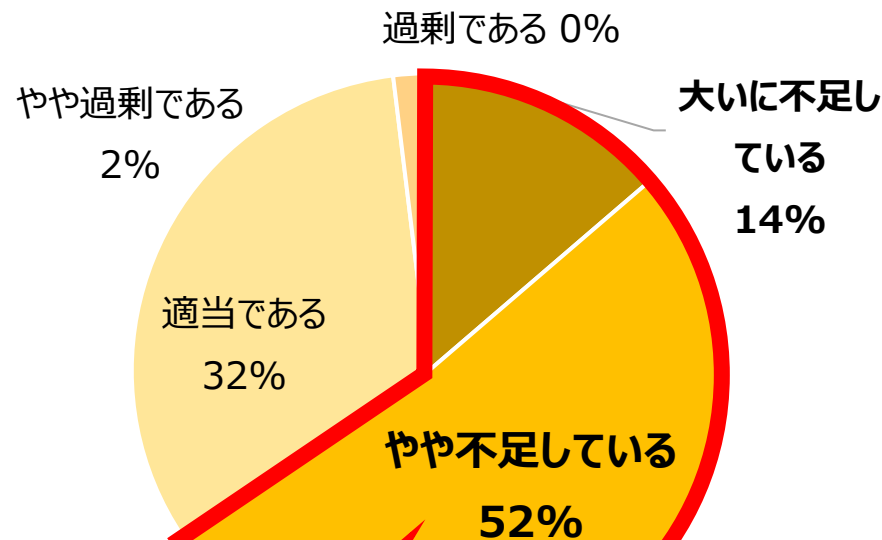


回答数 (56者)

3. アンケート結果 ③人手不足の現状と生産量への影響

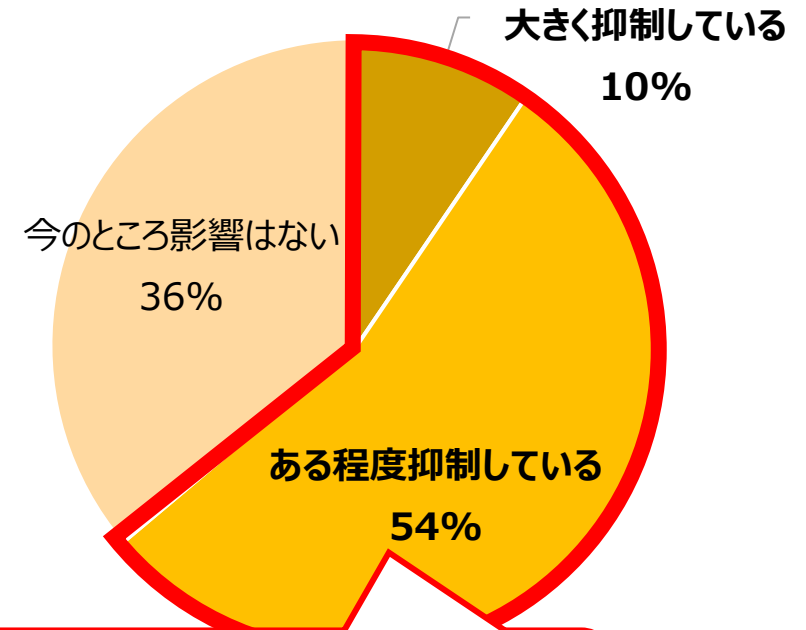
- ✓ 人材の不足状況について聞いたところ、約 7 割の事業者が、「大いに不足している」又は「やや不足している」と回答していた。そのため、**多くの事業体で人材が不足している状況**にあると考えられる。
- ✓ また、人材が不足していると回答した事業者のうち、**約 6 割が生産量を「大きく抑制」又は「ある程度抑制している」と回答して**おり、人材不足から生産量が抑制されている可能性が高い。

人材不足の状況



7 割の事業者が
人材不足の状況

人材不足による生産量への影響

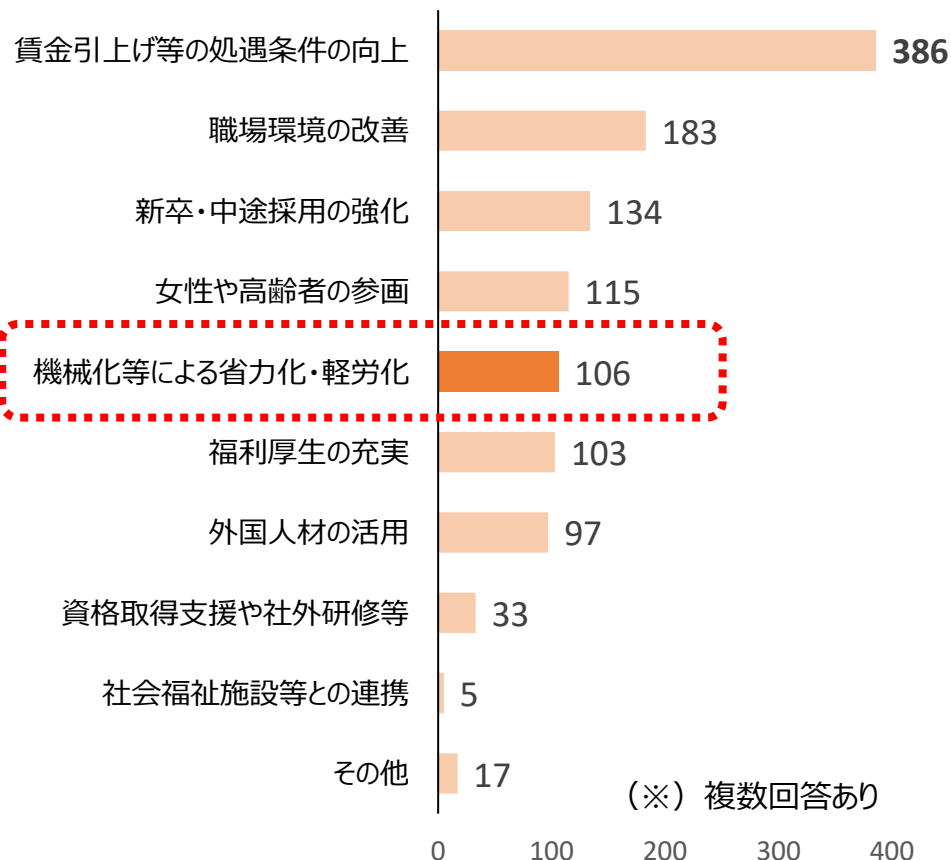


うち 6 割の事業者が
人手不足により生産を抑制

3. アンケート結果 ④人材確保・定着にむけた対応

- ✓ 人材の確保定着のために実施している内容について質問したところ、大半の事業者が「賃金引上げ等の処遇改善の向上」を実施していると回答しており、「機械化等による省力化・軽労化」に取り組んでいると回答している事業者は全体の2割程度となった。
- ✓ 一方で、取り組んでいる事業者は、輸送機械の他、ノーマンバンドソーなどの自動機械、自動棧積み機などを導入していることが明らかになった。

人材確保のため実施している内容



省力化のため導入した機械

✓ 輸送機械

搬送機の補助設備、イージーリフト、吸着移動機 等

✓ 加工機械

ノーマンツインバンドソー、ギャングリッパー、
モルダー自動投入機 等

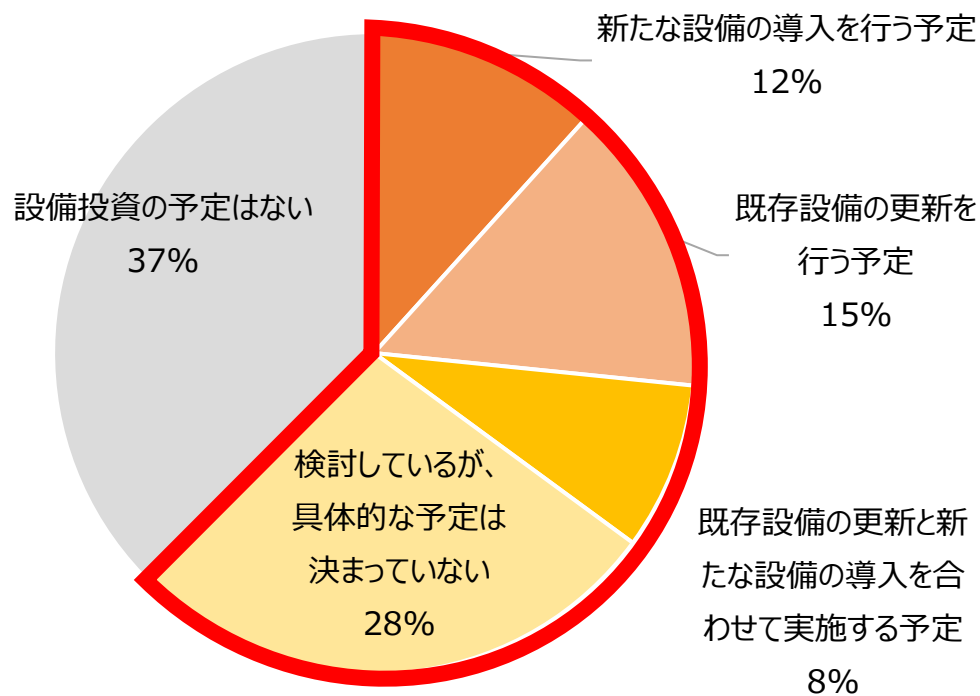
✓ その他

自動棧積み機、製品選別装置、スタッカー、結束機 等

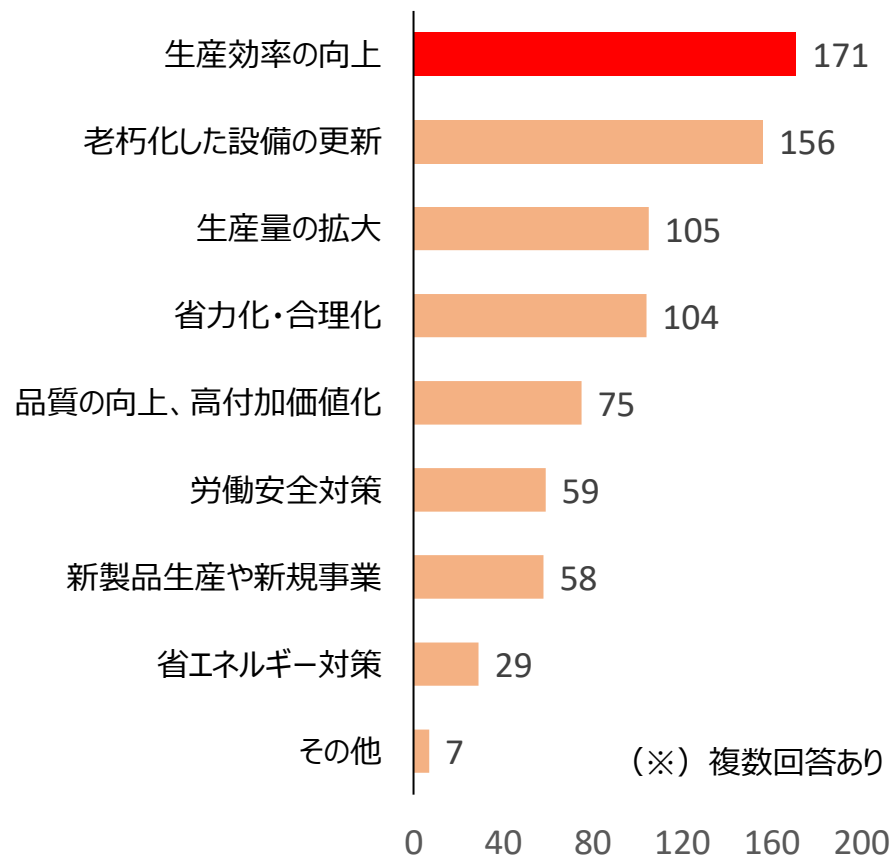
3. アンケート結果 ⑤設備投資の予定と目的

- ✓ 設備投資の予定を聞いたところ、全体の約 6 割の事業者が設備投資を行うことを検討していると回答していた。
- ✓ その目的としては「生産量の拡大」よりも「生産効率の向上」を重視している事業者が多く、人員不足等を反映し、**省力・効率的な生産を目的とした設備投資を検討している可能性**が高く示されました。

設備投資の予定



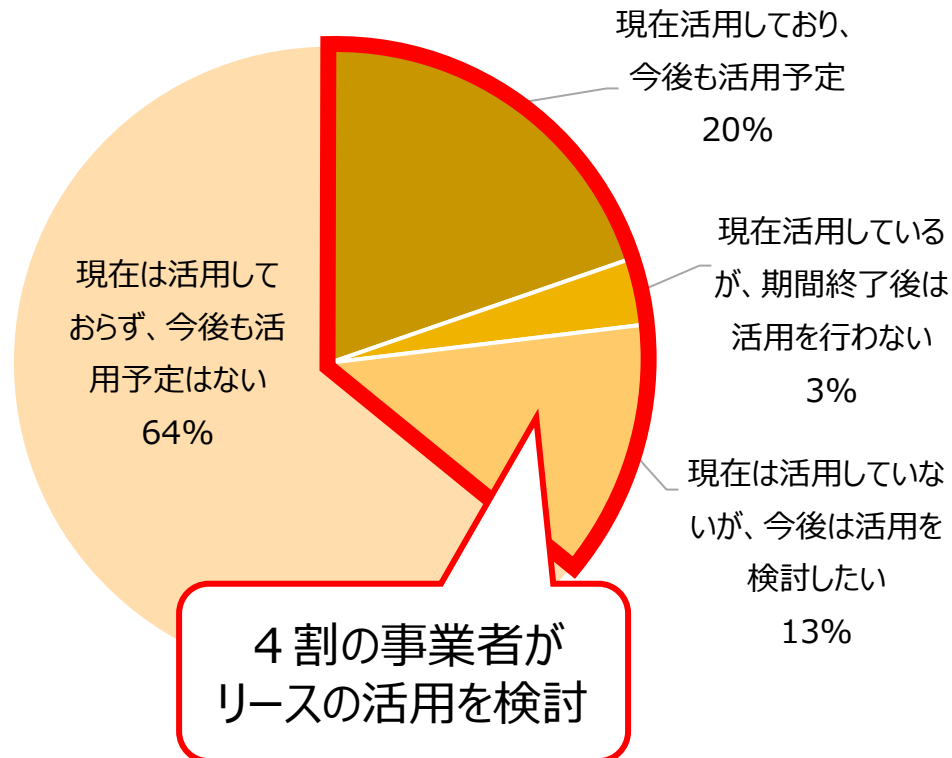
具体的な内容



3. アンケート結果 ⑥リース活用の現状

- ✓ 機械の設備投資に伴い、初期投資を抑え、安定した資金繰りで整備可能なリース機器の活用状況について聞いたところ、**4割の事業者が「活用している」又は「今後の活用を検討している」と回答していた。**
- ✓ リースを活用している事業体に、具体的に活用している機械を聞いたところ、原木輸送トラックやフォークリフト等の搬送機械の他、集成材製造機械やプレカット機械、モルダー、切削機械など**多岐にわたっている**ことがわかった。

施設整備におけるリースの活用状況



具体的な活用例

✓ 輸送機械

〔トラック、フォークリフト、重機類 等〕

✓ 加工機械

〔リングバーカー、製材機、プレーナーギャング、
モルダー、NC加工機、乾燥機、チップパー、
集成材プレス機、ボイラー、 等〕

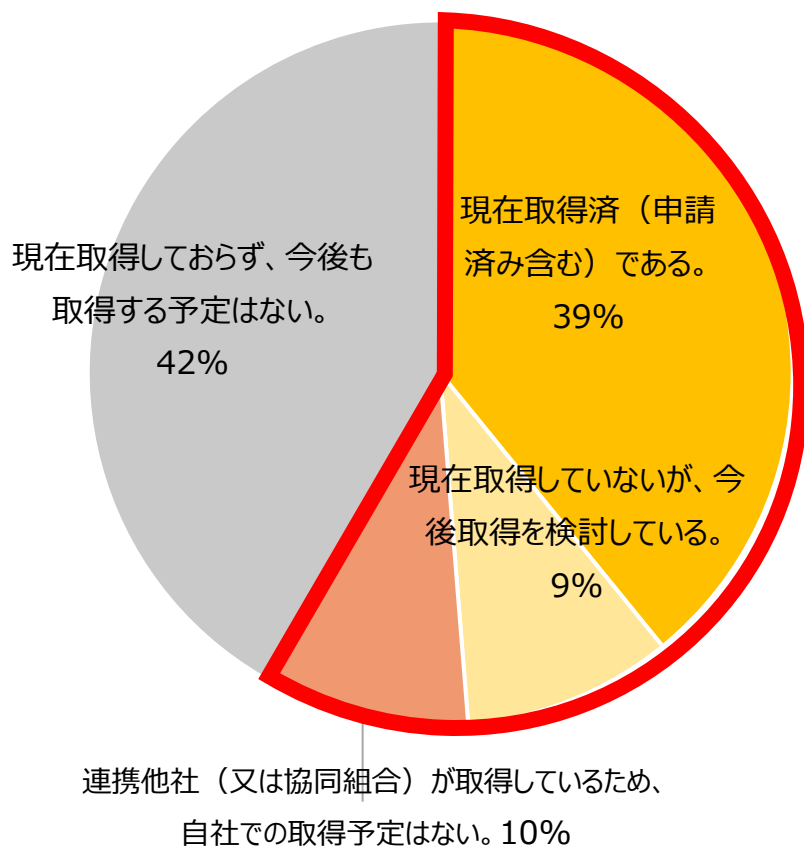
✓ その他

〔照明設備、リフト、トラックスケール 等〕

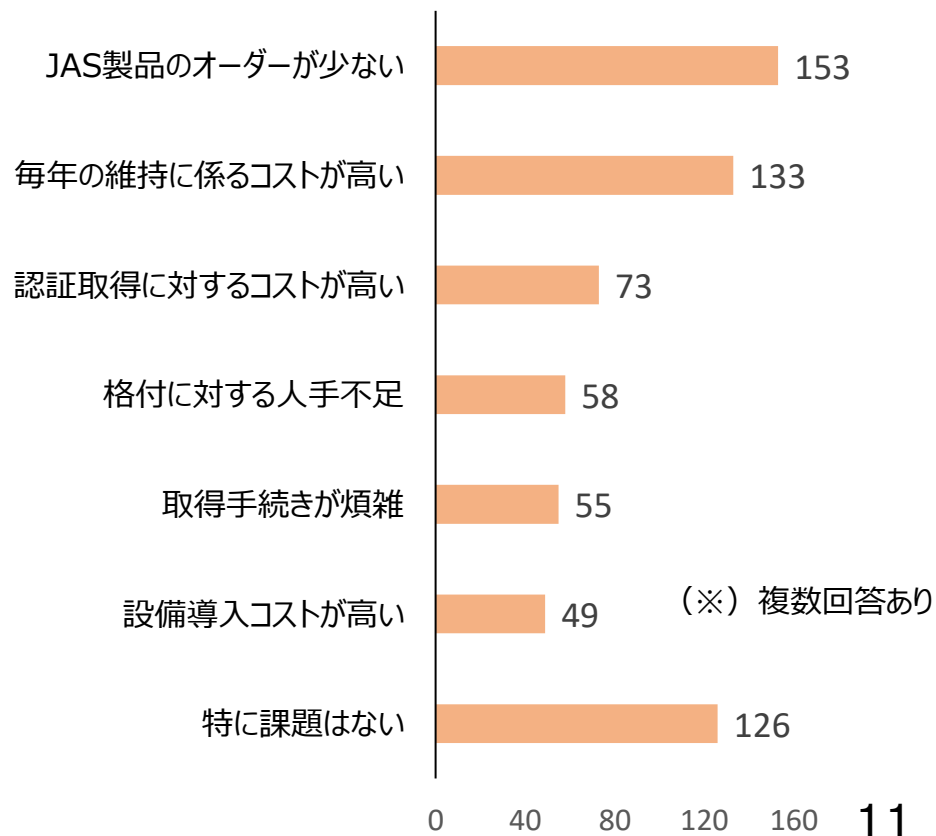
3. アンケート結果 （参考） JAS認証取得に向けた意向

- ✓ 工場設備におけるJAS認証取得の意向を聞いたところ、**約半数の事業者が連携他社も含めて取得済みであると回答していた。**また、全体の約 1 割が今後取得する意向があると回答していた。
- ✓ 取得にあたっての課題を聞いたところ、**製品のオーダーが少ないことや、毎年の維持に係るコストが高いことを課題と回答する事業者が多くみられた。**

JAS認証の取得意向



取得にあたっての課題



まとめ

- ✓ 木材加工流通施設が現在抱えている課題を把握し、その課題を踏まえた今後の施設整備の方向性を検討するため、製材工場や集成材工場、プレカット工場等向けにアンケート調査を実施した結果、以下の課題等が明らかになった。

①木材加工流通施設が直面している課題

- ✓ 木材加工流通施設が直面している課題として、「人材の確保・育成」や「生産の効率化・省力化」が課題となっており、具体的には、**高齢化や、人材を確保したくともそもそも働き手が少ないことなどが課題**として挙げられていた。

②人手がかかる作業の現状

- ✓ 多くの工場で実際の加工工程以外に人手がかかっていることが明らかになり、特にプレカット工場では、**CADによる加工データの作成にも労力がかかっている**ことが明らかになった。

③人手不足の現状と生産への影響

- ✓ また、人手部族の状況と生産に与える影響を聞いたところ、約7割の事業者が人手不足の状態にあると回答しており、**人手不足を認識している事業者のうち、約6割で人材不足から生産量が抑制されている可能性が高い**ことが明らかになった。

④人材確保・定着に向けた対応

- ✓ 人材確保に向けては、大半の事業者が「賃金引上げ等の処遇改善の向上」を実施していると回答しており、**施設整備等により省力化に取り組んだことのある事業者は全体の2割程度であった**。

⑤設備投資の予定と目的

- ✓ 一方で、今後は、「生産効率の向上」や「老朽化設備の更新」の他、「省力化・合理化」など、**人員不足等を反映し、省力・効率的な生産を目的とした設備投資を検討している事業者が多い**ことが明らかになった。

⑥リース機器の活用

- ✓ また設備投資にあたっては、初期費用を抑え安定した設備投資が可能となるリースの活用に対して**4割の事業者が活用以前向き**であり、具体的には、原木輸送トラックやフォークリフト等の搬送機械の他、モルダー、切削機械など多岐にわたっていることが明らかになった。

（参考）JAS認証取得に向けた意向

- ✓ JAS認証取得意向としては、すでに約半数の事業者が連携他社も含めて取得済みであると回答していたが、**取得にあたっては、そもそも製品のオーダーが少ないことや、毎年の維持に係るコストが高いことが課題**である可能性が示された。